

芦屋市指定文化財（芦屋神社境内古墳）について

1 指定区分

芦屋市指定史跡

2 指定年月日

平成28年2月19日

3 名称（よみ）

芦屋神社境内古墳（あしやじんじゃけいだいこふん）

4 員 数

一基

5 所有者

芦屋神社

6 所在地

芦屋市東芦屋町20番3号 芦屋神社

7 年 代

古墳時代後期～飛鳥時代（6世紀末～7世紀初頭）

8 概 要

芦屋神社境内古墳は、東芦屋町に所在する芦屋神社の境内にある横穴式石室墳で、標高85mを測る六甲山地の山麓台地上に立地しています。これまでに発掘調査は実施されておらず築造時期の詳細は不明ですが、横穴式石室の形態や構造等から古墳時代後期～飛鳥時代（6世紀末～7世紀初頭）に築造されたと推定されています。現在は単独で存在していますが、本来は昭和初期の住宅地開発で消滅した笠ヶ塚(かさがづか)群集墳(ぐんしゅうふん)を構成する1基です。市内でこれまでに確認されている横穴式石室墳において、本墳以外に玄室及び天井石が完存するものはなく、墳丘も最も良好に遺存しています。

墳丘の形態は円墳で、その規模は径19.0m、高さ3.5mです。

埋葬施設である横穴式石室は、現状で全長が10.4m、玄室が長さ3.6m、幅1.7m、高さ2.1m、羨道(せんどう)は多少の改変があり、長さ6.8m、北端の幅1.2m、南端の幅2.0mの規模です。

以上のように、本墳は古墳時代後期～飛鳥時代（6世紀末～7世紀初頭）に築造されたと推定される市内で最も遺存状態の良い横穴式石室墳として、本市の古墳を理解する上で学術的に重要な文化財としての価値を有するものです。

以 上

芦屋神社境内古墳写真



芦屋神社境内古墳全景

芦屋神社境内古墳石室内写真



天井石と両側壁



石祠と奥壁